

# 環境マネジメントシステム

## 美しい環境と共生していくために

公害問題、欧州RoHS指令をはじめ製品に適用される環境規制への対応まで、全社を挙げて改善活動に取り組んでいます。また、低炭素社会の実現を国際社会での必須の課題として受け止め、美しい環境と共生する事業活動はもちろんのこと、従業員一人ひとりのエコ活動が大きな成果を生み出すと考えています。法律、規則を順守し、メーカーとして長年培ってきた自動化技術、流体制御技術を活かした当社らしい環境にやさしい商品を開発し、お客様にお届けすることにより、今後も地球環境の保全に貢献していきます。

### 方針

当社の活動・製品およびサービスが環境影響に対して適切であること、継続的な改善および汚染の予防を目指すことに関するコミットメントとして、環境についての方針を設定しています。

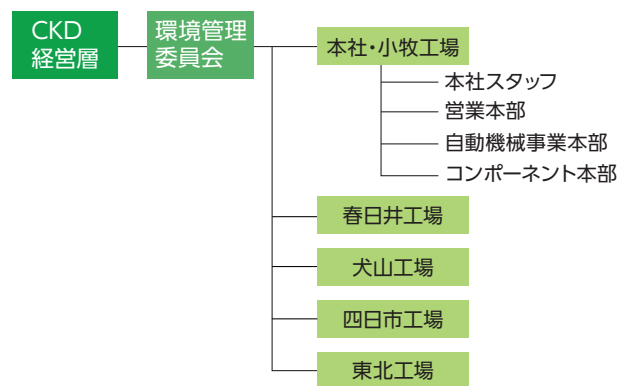
### 【環境】

1. 環境負荷低減型商品の開発および拡販を推進する。
2. 環境関連法規・規則の要求事項を明確にし、順守すると共に、CKDで働く人々の社会生活を含め、CO<sub>2</sub>排出抑制と環境汚染の予防を図る。
  - a) 省エネルギー・省資源の推進と省エネルギー生産ラインの構築
  - b) 環境汚染物質の削減
  - c) 廃棄物の削減

環境負荷低減型商品については、省エネ、省資源だけでなく、ライフサイクルの視点を考慮し、開発・拡販しています。また、環境関連法を順守しつつ、企業の社会的責任を認識した活動、およびCO<sub>2</sub>排出抑制と環境汚染予防を行い、環境負荷を少しでも低減できるよう努めています。

### 体制

環境負荷の軽減のために、全社を挙げて取り組んでいます。



### 環境法規制と順守状況

当社の活動には、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）をはじめ各種環境法が適用されています。2019年5月に本社・小牧工場において水質汚濁防止法の法令違反が1件ありました。発生した違反については、速やかに行政に報告のうえ対策し、再発防止を図りました。その他、罰金や制裁措置などの規制違反や環境に影響を及ぼす化学物質等の漏出事故はありません。

### 環境目標と実績

	目標	実績
環境負荷低減型商品の開発および拡販	当社基準を満たしたエコ製品の開発および発売	年間の開発・発売件数に目標を設けています。2019年度目標達成率は93%となりました。
	環境負荷低減型商品を拡販する	機器商品について前年度比5%アップを目標としています。2019年度目標達成率は87%となりました。
	環境負荷低減型商品に対する顧客の改善要求情報を収集し、開発・改良を提案する	営業担当部門に目標件数を設けています。2019年度目標達成率は334%で、目標を達成することができました。
環境汚染物質の削減	REACH規則に対応する製品含有化学物質データの収集	お客様からの含有物質データ提供要求にお応えするために、含有物質のデータ収集を進めています。
省エネ・省資源の推進	インフラ・生産工程を改善し、エネルギー使用量を削減する	省エネ法削減努力目標の年1%（原単位）を目標としています。2019年度は前年度と比較してエネルギー使用量が3%増加、原単位は16%増加し、2015～2019年度の5年間平均原単位は2%増加となりました。

## <本社・小牧工場の土壌・地下水汚染の浄化>

2014年5月に建屋の建設に伴う土壌調査を行った結果、基準値を上回る有害物質が検出されたため、行政へ届出および報告を行い、計画的かつ継続的に措置を進めています。また敷地外への地下水汚染の拡散はありません。

汚染土壌の掘削除去	基準超過土壌は2014年10～11月に掘削除去し、許可施設に搬出処理済み
汚染地下水の揚水浄化	2015年7月から揚水浄化を開始し、濃度変化を監視
汚染地下水のバイオ浄化	2018年6月から早期浄化・外部拡散防止を目的に追加対策としてバイオ浄化を実施

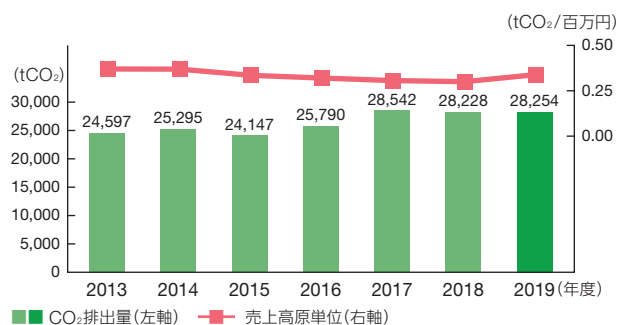
## 地球温暖化対策の取り組み

再生可能エネルギー（太陽光発電設備）の計画導入、高効率設備の導入（更新）、省エネルギーラインの構築等の改善活動を継続的に実施し、CO<sub>2</sub>排出量・原単位の削減を図っていきます。

- CO<sub>2</sub>排出量は2019年1月に竣工した東北工場分として2,647tCO<sub>2</sub>増加しており、全体では0.1%の増加となりました。また、2013年度比15%（3,657tCO<sub>2</sub>）増加していますが、売上高原単位では同比8%削減しています。

(注)集計範囲:国内工場・営業所

## CO<sub>2</sub>排出量の推移



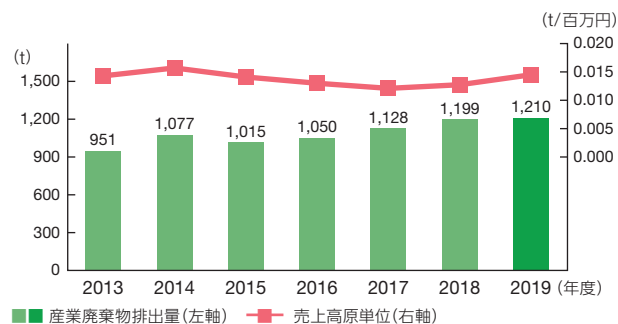
## 産業廃棄物削減の取り組み

各工場で発生する産業廃棄物の分別、埋め立てゴミの低減、廃棄物のリサイクル化を進め、排出量・原単位の削減を図っていきます。

- 産業廃棄物排出量は2019年1月に竣工した東北工場分として46t増加していますが、全体では0.6%の減少となりました。また、2013年度比27%（259t）増加しており、売上高原単位では同比1%増加しています。

(注)集計範囲:国内工場

## 産業廃棄物排出量の推移



## 水使用量削減の取り組み

各工場で使用する水の使用において、排水の再利用等を行い水資源の有効活用を進め、水資源の使用量・原単位の削減を図っていきます。

- 水使用量は2019年1月に竣工した東北工場分として47千m<sup>3</sup>増加しており、全体で9%の増加となりました。また、2013年度比23%（77千m<sup>3</sup>）増加していますが、売上高原単位では同比2%削減しています。

(注)集計範囲:国内工場

## 水使用量の推移

